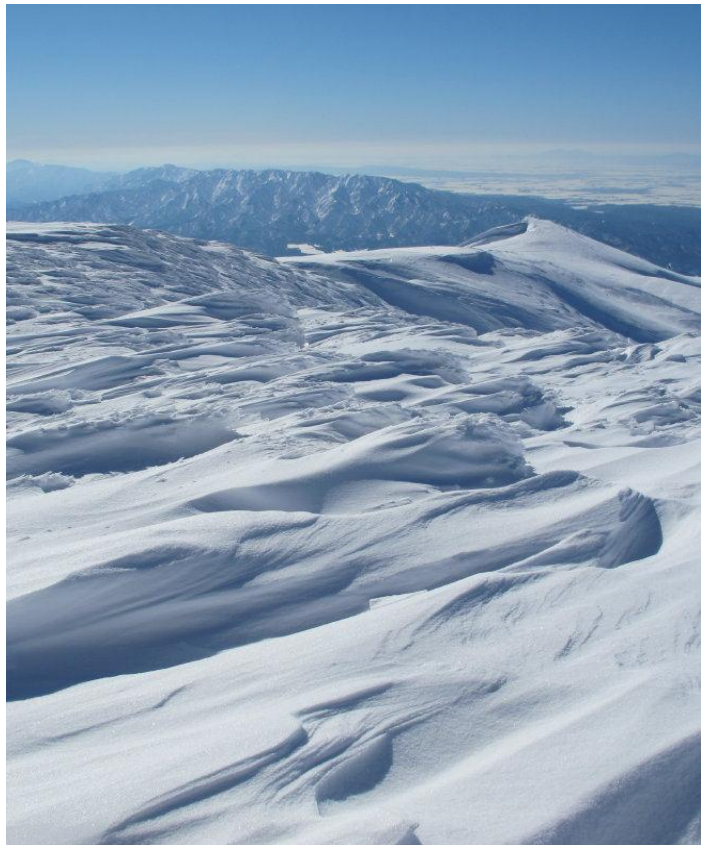


二王子岳山行記錄



2月16日(水): 終日快晴



メンバー：赤沢（月岡の山の達人）・加藤・金田・五十嵐（黒崎山の会）・目黒・高橋夫妻・伴場・笠原

【上山】 6:30 南俣～7:35 二王子神社～9:15 カンジキ歩行へ～10:05 独標～11:15 油コボシ～12:05 山頂

【下山】 13:40 山頂～14:45 独標～15:45 二王子神社～16:35 南俣（休憩時間は不記載）

越後の今冬は殆どお天気の日が無い。週間天気予報で久々この日が晴れと出たので、山に出かけるつもりでいた。しかし、行き先はまだ決めていなかった。そこへ、前々日に伴場から連絡が入り、是非とも二王子岳の青春の鐘のモンスターが見たいと言って来た。一方、同時刻頃に黒崎山の会グループも二王子岳山行の計画を練っていて、Aさんにガイドをお願いしているところだったと言う。更に高橋夫妻も加わって、皆の思いが一致してこの山を目指すこととなった。

南俣には、我々が一番乗りだったが、間もなく新発田市の若者単独男と山スキー3人隊の車がやって来た。我々が一番手でAさんを先頭に林道に入る。

神社前でお参りや身繕いをしていると、前記の全員が揃い、その間に二王子岳の主 **Sudou** さんが先行して行ったとのことである。壺足で杉林を進むが、広葉樹帯となった所でカンジキを履く。スキー隊が追付いて来て、前後して進む。若者が我々の後ろに付いて歩くが、彼は山を始めたばかりで、無雪期には登ったことがあるが、積雪期は初めてと言う。従って、上下山とも我々の後ろを歩き、一度も前に出ることは無かった。

独標に上ると、**Sudou** さんが先着されており、挨拶をさせて貰う。11日も登っておられるが、今日の方が少し歩きにくいと言っておられた。

ここまでもそうだったが、この後もAさんが我々をグングンと引っ張ってくれて、隊の最後尾を歩いた私は、一人遅れ気味であった。前日の降雪が適度であって、油コボシの登りも最上部の小刻みな斜登高を除けば、ほぼ直登出来た。日差しは申し分ないが、稜線に上ると、風を受けて途端に体感温度が下がる。

山頂に着けば、飯豊連峰が覆うもの無く全貌を見せて歓迎してくれた。モンスターは中央に顔一つ分の穴を残していた。まだこれからも成長して行き、その穴もしばらくすれば塞がることであろう。

景色を楽しんでいる間に **Sudou** さんは下って行かれ、スキー隊も滑降して行った。

それ程回数は多くは無いが、今までで一番の飯豊パノラマであった。